

ツマジロクサヨトウ情報第1号

令和3年6月1日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

フェロモントラップで誘殺を確認しました ほ場での発生状況に注意しましょう

1 ツマジロクサヨトウの愛知県での発生確認経過

令和3年5月26日、愛知県農業総合試験場内に設置したフェロモントラップにおいて、ツマジロクサヨトウ (*Spodoptera frugiperda* (J. E. Smith)) 雄成虫1頭の誘殺を本年度初めて確認しました。トラップの設置地点周辺は、主に飼料用トウモロコシ等の飼料作物が栽培されていますが、5月31日時点で本種幼虫の寄生は確認されていません。

2 本種の形態及び特徴

幼虫(図1)は、主に飼料用トウモロコシ、スイートコーン、ソルガムの葉を食害します。食害が進むと、茎頂部に潜り込んで、展開前の葉を食害するため、葉の先端に大きな穴が開いたり、切断状になります(図2)。

終齢幼虫の体長は約40mmで、頭部に網目模様があり、頭部縫合線に沿って淡色になるため逆Y字状の見える斑紋があります。また、尾部に黒色斑点があります。

本種は、愛知県で越冬できず、梅雨期に熱帯、亜熱帯地域から飛来すると考えられています。そのため、今後の気象状況によっては、更に本種が飛来する可能性があるため注意が必要です。

3 防除対策

- (1) 国内では幼虫が飼料用トウモロコシ、スイートコーン、ソルガムで多く見つかることから、これらの作物については特にほ場を見回り、早期発見に努めましょう。
- (2) 幼虫の発生を確認したら、防除を行いましょ。本種に対して使用できる農薬については、農林水産省HPを参照してください(注)。

注：http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kokunai/tumajiro.html

- (3) 発生が確認されたほ場では、本虫の分散を防ぐため、収穫後は速やかに耕起し、残さをすき込みましょ。



図1 ツマジロクサヨトウ幼虫



図2 本種による飼料用トウモロコシの食害